

カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

記入番号	
記入年月日	2009年5月1日
学部・研究科名	医学部・保健学科
学科・専攻等名	看護学専攻
コース等名	

学部・研究科の教育目的(具体的に記述・箇条書き)		学科・専攻等の教育目的(具体的に記述・箇条書き)					
1. 医療の変化に対応できる人材の育成 2. チーム医療の一員として活躍できる人材の育成 3. 医療チームの学問体系的確立に貢献できる人材の育成 4. 医療の国際化に対応できる人材の育成 5. 地域医療の向上に貢献できる人材の育成		1. 社会の要請に柔軟に対応する共通教育コースカリキュラムで学習し、幅広い教養を持った医療の担い手として社会の変化に対応できる基本的な能力を身に付けている。 2. 臨地実習での学習により、チーム医療の一員として活躍能力を身に付けている。 3. 医療チームに参加する多職種役割を理解し、医療関係者との円滑なコミュニケーションやプレゼンテーションができる。 4. 共通教育でのTOEICと専門課程でお医療英語や基礎的な医療英会話を学習し、実践的英語能力を養い、医学・医療の国際化に対応できる能力を身に付けている。 5. 学生サークル活動やボランティア活動への参加により、豊かな人間性を持った社会性のある医療人として基本的な能力を身に付けている。 6. 国家試験に合格する医学・看護及び検査技術の知識と技術水準を身に付けている。					
		学科・研究科等の Graduation Policy(GP) (◎=GP達成のために、特に重要な事項、○=GP達成のために、重要な事項、△=GP達成のために、望ましい事項)					
授業科目名	授業科目の主題(箇条書き) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書きに記入する。)	授業科目の到達目標(箇条書き) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主語で行為動詞を使用した箇条書きに記入する。)	A.急速に進歩している医療・看護の状況を正しく理解し、安全で適切な看護を提供するための基礎的な能力を身に付けている。	B.チーム医療を担う一員として、他の職種役割を理解し、協力関係を築き、発展させる能力を身に付けている。	C.看護学を確立し、発展させることができるように、看護研究に必要な基礎的な能力を修得している。	D.世界レベルの健康問題について認識できるように、語学を含む基礎的な能力を身に付けている。	E.地域の保健・医療のニーズに合った活動を計画・実行する手法を身に付けている。
[共通教育科目群]							
フレッシュマンセミナー	<ul style="list-style-type: none"> 学生同士や教員との人間的結びつきを深める。 共通教育カリキュラムを理解させる。 充実した大学生活を送るための指導を行う。 卒業後の進路を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生が共通教育カリキュラムを理解する。 自立した大学生生活を送るための心得ができる。 将来の職業認識がもてる。 		○			
基礎セミナー1	<ul style="list-style-type: none"> 医療職者の現状を知りその役割と責任を理解する。 他者の話を正確に聴き、自分の考えを分かりやすく説明・文章化することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の医療システムとチーム医療の役割が説明できる。 課題に対する自分の考えを分かりやすく文章で表すことができる。 	○	◎	○	○	△
情報リテラシー演習	コンピュータおよびコンピュータネットワークを学習などに活用するための操作法を身に付けさせる	<ul style="list-style-type: none"> 文書作成や表計算、インターネットを利用した情報収集などの基本的な操作ができる 	○	◎	○	○	○
情報セキュリティ・モラル	ネットワーク社会における情報モラルの必要性と自己の立場での情報セキュリティに対する責任を認識させる	<ul style="list-style-type: none"> 情報社会の参加者として、情報モラルや法令などを遵守し責任ある行動をとることができる 日頃から情報セキュリティに関心をもち、身の回りの事例に対して適切に判断し対策を施すことができる 	◎	◎	○		
TOEIC準備	<ul style="list-style-type: none"> TOEICテストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解させる。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理させる。 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身に付けさせる。 Listening Comprehensionに慣れるため、自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身に付けさせる。 自習課題の成績や、TOEICの各パートの正答率などをともに自己の英語力を確認し、受講者自らTOEIC IPテストでの目標点を設定させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の探索力・収集力、提示された情報から求める情報が推察できる。 自学自習の習慣が形成できる。 スピーディーな英語を聞き取り、また、読み取り、情報を処理することができる。 自己の英語力を確認し、向上しようとする態度がみにつく。 TOEICテストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方が理解できる。 		○	○	○	
English Speaking	<ul style="list-style-type: none"> 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。 WB Tを利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な語彙・文法的知識が身につく。 積極的に英語を使って意思伝達を行うと態度がみにつく。 身近なことがらについて流暢に話せる。 		○	○	○	
TOEIC認定400	<ul style="list-style-type: none"> TOEICで400点以上を4年次への進級時まで取得する 	<ul style="list-style-type: none"> TOEICで400点以上が4年生への進級時まで取得できる 		○	○	○	
医療英語	<ul style="list-style-type: none"> 日常の医療の紹介(英文)を電子辞書(英辞郎)を用いて速読させる。 読みながら、設定された質問に対して、copy & paste機能で英文のまま解答を作成させる。 その解答をweb mailで教員へ送付させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常医療に使われる用語を英語でもある程度、理解し、また使うことができる。 		○	○	○	
基礎医療英会話	Students will learn to communicate in English simply and affectively with English speaking patients, their family members, and significant others.	<ul style="list-style-type: none"> knowing basic simple English conversation to help English speaking patients. enjoying to speak English. speak in English with confident. show facial expressions and gesture. translate medical forms. 		○	○	○	
医療心理学	<ul style="list-style-type: none"> 人間の心理を理解させ、基本的傾聴技法を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 人格の形成を理解し、防衛規制について説明ができる。 自分の性格を客観的に評価し、説明できる。 ストレスを定義しストレスで起きる疾病を述べ、その対応方法を述べることができる。 身近な精神疾患について説明し、その対応方法が実施できる。 傾聴技法の理論を説明し、実施できる。 	○	◎		△	△

医学のための統計学	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオサイエンスにおける統計学の役割と使い方を、身近な例題をつかって解説する。 ・統計の基本となる、計測した数値の分布の形状の捉え方と、要約値(統計量)の求め方について解説する。 ・医学領域における研究において、その結果の判定で不可欠となる統計的仮説検定法をデータの形式毎に系統的に解説し、演習を行わせる。 ・検定法の背景となる数理を理解させるため、様々な標本抽出実験、コンピュータシミュレーションを行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医学研究における統計学の役割が分かる ・仮説(有意差)検定の原理が分かる ・パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の違いとその使い分けが分かる ・クロス集計結果の検定とその解釈ができる ・相関係数と回帰直線を求められ、分析結果を解釈できる。 ・統計量の分布型を分析でき、基準範囲を設定できる ・統計データの偏りとその原因・解消法を理解している 	○		○		○	
総合科目(医療環境論)	<ul style="list-style-type: none"> ・医学・医療の前提をなす自然・社会・文化的環境すなわち「医療環境」の全体像を、Life、地球環境、身体、文化的多様性、社会等の概念・軸を用いて理解し、その中における医学・医療の位置づけを把握し、人間の病と健康をめぐるさまざまな問題を総合的に捉える視点と態度を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療と関わる様々な学問分野の視点、基本的用語、概念、方法論を理解する。 ・各回の授業で示されたテーマについて、自分なりに考察し意見を表明できる。 ・与えられた課題への理解を深めるために、積極的に資料収集できる。 ・人を引きつけるプレゼンテーションができる。 			○			
生物学 I								
専門共通基礎科目								
形態機能学 I	<p>人体各部位の名称 人体各部位の機能</p>	<p><知識・理解> 人体の肉眼的構造を理解する。 <思考・判断> 人体の構成とそれがいかなる機能を行っているかを理解する。 <関心・意欲> これからの医学的知識獲得への関心を持つ。 <態度> 自ら学ぶことに重点を置く。</p>	◎		◎	○	△	
形態機能学 II	<p>実際の人体や臓器の観察 病態の基盤となる解剖生理学 人体の構造と機能 獣体の意義や死生観</p>	<p><知識・理解> 人体を理解するために必要な解剖学的構造の名称を述べ、機能を説明できる。 <思考・判断> 主たる構造についてその障害が起こる原因や臨床症状について説明できる。 <関心・意欲> 人体の構造のルールや発生・進化、臨床的意義について自分で調べ、整理できる。 <態度> 積極的に講義や実習に参加し、他者と議論し、自分の知識や考えを整理できる。 <技能・表現> 積極的に解剖実習に参加し、観察法を体得し、自分の考えをまとめて表現できる。<その他> 実際の遺体を観察し、獣体の意義や死生観について自分の考えを説明できる。</p>	◎		◎	○	△	
形態機能学 III	<p>生理機能を人体を構成している種々の系統(循環系、神経系、消化器系、呼吸器系、運動機能系、聴覚・視覚系、口腔歯科系、等)単位で学ぶ。また、生理機能を測定、検査する方法を学ぶ。</p>	<p><知識・理解> 人体を構成している生理機能システムの相互関係を思考する。 <思考・判断> 人体を構成している生理機能システムの相互関係を思考する。 <関心・意欲> 人の生理機能の統合性を理解することに意欲を持つ。 <態度> 生理学を熱心に学ぶ。</p>	◎		◎	○	△	
生化学	<p>人等生物を構成する化学物質の生体、細胞内での役割を化学の言葉で学ぶ</p>	<p><知識・理解> 人体とその細胞を構成する化学物質(=生体物質(アミノ酸、タンパク質、脂質、糖、ビタミン等)がどのような役割をしているか化学の言葉で理解する <思考・判断> 生体物質の役割に対する正しい知識を基に、合理的な医療思考を身につけ、根拠の無い似非(えせ)医療科学を区別できる判断力を身につける <態度> 生命現象を科学的な面から受け入れることができる</p>	◎		◎	○	△	
免疫学	<p>免疫学は、医学の各分野に幅広く関わっており、免疫のエッセンスを学ぶことは、医学・医療の道を目指す全ての学生にとって大切である。本講義では、細胞レベルからみた免疫系や分子レベルからみた免疫系など様々な角度から免疫系のしくみを概説し、感染防御・癌の発生・アレルギー・輸血・臓器移植等に免疫系がどのように関連しているのかを解説する。さらに、免疫学的検査に必要な基礎知識と反応原理について講義する。</p>	<p><知識・理解> 1. [自然免疫と適応免疫]および[体液性免疫と細胞性免疫]の違いを説明できる。2. 免疫担当細胞の種類と各細胞の役割を説明できる。3. 免疫がもたらす有害な生体反応について、その病因を説明できる。4. 試験管内抗原抗体反応について、その原理を説明できる。 <思考・判断> 1. 生体の免疫反応を細胞レベルおよび分子レベルで論理的に説明することができる。免疫システムの異常によりどのような生体反応が現れるのかを考察できる。2. 医療領域における各種免疫学的検査の意義を述べることが出来る。 <関心・意欲> 自ら疑問点を見出し、その解決のために積極的に質問をすることができる。 <態度> よく理解できない所については復習をしたり、逆に予習を行って授業に望むくらいの積極的な態度を身につける。 <技能・表現> 授業での教員の質問に対して十分な回答ができる。例え、正しい解答ができなくても自分はどこがわからないか等を明確に答えることができる。</p>	◎		◎	○	△	
病理学	<p>病理学は医学的知識を習得するための基本になる学問であり、医療従事者の一員としての看護師もその業務を遂行するためには、各疾患の概念、病態などを理解していることが大切である。本授業では疾病について総合的に概説し、さらに基本的な疾患についてもその概念や病因、臨床症状、診断、治療法、経過・転帰などを講義する。</p>	<p><知識・理解> 基本的な疾患についてその概念や病因、臨床症状、診断、治療法、経過・転帰などを理解し、知識として習得できる。 <思考・判断> 臨床症状や理学的所見から疾患を推察することができる。</p>	◎		◎	○	△	

微生物学	現在多くの化学療法剤が用いられているにもかかわらず、感染症は少しも減少していない。このことをふまえて、まず微生物とは何かということについて基礎的な知識を学び、各種の感染症とその起因微生物、宿主の防御機構、感染症に対する治療・減菌・消毒について正確な認識をもち、感染症に対する対策について考える。	<知識・理解> 病原微生物の知識を得る。感染について正しく理解する。 <思考・判断> 感染と病原微生物について正確な判断が出来るようになる。 <関心・意欲> 周囲および全国で話題になっている感染症に対して関心を持ち自分の意見が言えるようになる。	◎	◎	○	○	
臨床栄養学	適切な栄養管理は、患者の生命維持に必須であるばかりでなく、疾病の治療・予防や周手術期の管理を効果的に実施する上で基本となる治療である。また、患者のQOLを向上させる重要な要因である。この講義では病態の改善に食事療法が重要な位置を占める代表的疾患を取り上げ、その概念、病態、診断、治療(食事療法を中心に)の原則について概説する。	<知識・理解> 1. 栄養素の種類と機能を列挙できる。2. 日本人の食事摂取基準がどのように設定されたか説明できる。3. 栄養法の種類と適応を列挙できる。4. 栄養障害の評価方法と治療法を説明できる。5. 肝臓病・腎臓病の食事療法の基本を説明できる。6. 肥満、高脂血症、糖尿病、高血圧についてその病態と食事療法の意義について説明できる。7. 病態に応じて必要なエネルギー量、栄養素の配分を算出できる。	◎	◎	○	○	
臨床薬理学	必須の医薬品に関する知識(薬物の作用、吸収と分布と排泄、効果と副作用、各種剤型とその特徴など)について理解させる。	医薬品に関する知識(薬物の作用、吸収と分布と排泄、効果と副作用、各種剤型とその特徴など)について理解できる。	◎	◎	○	△	
保健学	1. 保健学とは何か、どのような学問かを理解する。 2. 保健医療における公衆衛生的視点について理解する。 3. 国内外における健康問題とその対策について理解する。	<知識・理解> 1. 健康問題に対する公衆衛生的アプローチを説明できる。2. 健康の本質とそれを左右する諸要因を説明できる。3. 国際的視点から健康課題・政策の歴史を説明できる。 <思考・判断> 1. 保健医療における典型的な健康問題を、公衆衛生的側面から解決する方策について考えることができる。2. 健康問題を時間的空間的に把握し、将来に向けた問題解決の方策について考えることができる。	◎	◎	◎	○	◎
環境衛生学	化学的および物理的環境の変化と健康について理解させる。	・水・大気・環境の変化と健康影響を説明できる。 ・物理的環境の変化と健康影響を説明できる。 ・産業職場の環境変化と健康影響について説明できる。 ・地球規模の環境変化と健康影響について説明できる。 ・栄養および食品衛生と健康について説明できる。	◎	◎	◎	○	◎
医療放射線学	・放射線医学の診断、核医学、放射線治療の日常放射線診療の実際を理解させる。 ・画像の成り立ちと各疾患における特徴像、臓器特異性の核種を用いて機能的情報を提供する核医学的診断、放射線診断技術の臨床的応用(IVR)や集学的治療の臨床応用など放射線診療をさせる。 ・低侵襲的な検査の読影と集学的治療の役割を習熟させる。 ・放射線治療の日常診療の実際を理解させる。	・日常放射線診療の実際が理解できる。 ・核医学的診断、放射線診断技術のがりかできる。 ・低侵襲的な検査の読影と集学的治療の役割がわかる。 ・悪性腫瘍の由来の性質と放射線治療に対する腫瘍の感受性を学習し、放射線治療の役割が理解できる。	◎	◎	○	△	
医療情報システム論	1. 情報通信の例としてインターネットのしくみに関心を持たせ、理解させる 2. 病院内の医療情報システムのしくみや利用に関心を持たせる 3. 医療情報に関する法令やモラル、セキュリティ対策などを理解させる	1. ネットワーク利用に不可欠なプロトコルやそのほかのルール(規格化、標準化)について説明できる 2. 医療情報を適切に扱うための立場や機会にふさわしい判断ができる 3. 適切なセキュリティ対策を施すことができる	◎	◎	◎	○	◎
人間関係論	援助のための6つの態度、カウンセリング・マインド、態度を実現する10の技法、対人感情、対人認知、自己認知、他者から見た自分、二重のコミュニケーション、非言語コミュニケーション、主張行動、相互的コミュニケーション、リーダーシップ、協調と競争、集団凝集性、家族力動	1. カウンセリングの心・態度、技法が理解できる。 2. 対人感情の発生条件と対処法が理解できる。 3. 他者理解の成り立ちを理解し、他者があるが七に、また肯定的な面を中心に理解できる。 4. 自己理解を、他者による自分の理解をフィード・バックして理解しなおすことができる。 5. コミュニケーションの二重性の問題を理解し、自分では、二重のコミュニケーションを避けることができる。 6. リーダーシップについて理解できる。集団のまとまりを作り出す条件を理解する。 7. 家族の働きを理解し、家族集団の力動性を理解できる。	○	◎	◎	○	◎
症候ケア論	健康障害を抱えた人々が示す主要症状のメカニズムについて解説し、その基本的治療方法、治療・処置を受けている患者の看護、症状緩和のための看護技術について教授する。	1. 健康障害を抱えた人々が示す主要症状のメカニズムについて理解できる。 2. 主要症状の基本的治療方法、治療・処置を受けている患者の看護、症状緩和のための看護技術について理解できる。	◎	○	◎	○	△
リハビリテーション学	看護の立場でのリハビリテーション活動 医療従事者間の連携	<知識・理解> リハビリテーションの理念や目的、健康障害をもつ人の機能回復について説明できる。<思考・判断> リハビリテーションチームアプローチの特徴と看護師の役割や機能について指摘できる。	◎	○	○	○	◎
英文多読	英文多読及びビデオ鑑賞。早い速度の医療英語の飛び交うドラマER(Emergency Room)ビデオ44分間を鑑賞し、(入荷待ちですがなかなか来ないので再検討する)、その後、各自多読をする。別室で初めから多読でも良いし、リスニング等でも良い。	<知識・理解> 英文を直読直解する重要性を理解する <関心・意欲> 英文に対しアレルギーを持たない。英語を聴き取ろうとする意欲。 <態度> 英語に触れることを楽しむ態度 <技能・表現> 英文を訳さず速読する能力育成			○	◎	
Comprehensive hearing(英語聴解)	「NHKラジオ 入門ビジネス英語」を15分間聴いて、その後の15分間は、そこで述べたスキットを繰り返し口に出して「追いかけっこ」(shadowingと称している)を行う。これにより、英語のスピーキング力の養成を図る。	<知識・理解> 英会話を聴き、理解し、さらに完全に聴き取れることをまず確保する。その後、同会話を何度も自分で「後追い」して文章ごと暗記する。これにより会話能力を養成する。 <思考・判断> 完全に聴き取ることにより、「聴解」を達成する。さらに <態度> 持続力の一言に尽きる。 <技能・表現> 身に付いた語彙は積極的に使って、意思の疎通を図る。			○	◎	

Comprehensive reading (英語読解)	解剖生理学(1年生の形態学の教科書)、Chemistry of the living organism、あるいは病理学などを考えています。1回につき、1-2頁、したがって、1セメスターで100頁ほど読むことになると思います。内容および運営法は運営さんの要望を大幅に取り入れ、できれば学生主体で運営して欲しいと思っています。	国試にも関係する内容を理解しつつ英語力を徐々に伸ばすことを意図している。 〈思考・判断〉内容は医学に関係すること(例えば、病理学や解剖生理学)であるので、医学、医療に則して思考・判断することが必要である。 〈関心・意欲〉医学・医療に関心を持てる者には、知識を楽に伸ばす機会。 〈態度〉毎回出席する忍耐力が求められる。 〈技能・表現〉英語で専門用語が使えるようになる。		○	◎	
キャリアデザイン	1. 卒業後、「こうありたい」という自己のキャリアをデザインし、その実現のためにどうしたらいいか、手がかりを得る。 2. ライフキャリアを向上させるために、努力することができる。	〈知識・理解〉自己のキャリアデザインについて説明できる。 〈思考・判断〉自己のキャリアをデザインし、実現に向けて思考し、行動できる。 〈関心・意欲〉自己のキャリアデザインに関心を持ち、キャリア向上のために努力できる。		◎		
専門科目						
看護学概論 I	・看護の真髄を流れる概念は、人間のケアである。 ・ケアの本質、看護、人間、健康、生活について教授する。 ・ヘルスケアシステムの中にある看護の位置を知る。 ・看護の概念の理解を目指す。 ・看護倫理、看護の変遷、看護の役割について概説する。	〈知識・理解〉1. 看護の素晴らしさを知る。2. 看護教育制度における自己の位置を説明できる。3. ケアリングと看護の連関を説明できる。4. 「倫理」は質の高い実践の基盤であることを理解する。5. 代表的な看護の概念を説明できる。6. 看護・健康・生活・人間説明できる。7. ヘルスケアチームにおける相互協力の重要性を認識する。8. 看護師の倫理綱領についてポイントを説明できる。 〈思考・判断〉1. 課題に対して自分の考えを述べることができる。2. 学んだことをもとに自己の日常生活を評価できる。 〈関心・意欲〉1. 学習をさらに広げ、疑問点を解決しようとする行動できる。2. 先輩の看護理論の遺産を原着でよむことの喜びを実感できる。3. 看護学を継承し発展させる意欲をもつことができる。 〈態度〉1. 日常生活の中で、「他者を大切にすかかわり」ができるように努力できる。2. 学習したことをすずんで自己の生活に活かす取り組みができる。3. 他者の意見を尊重し、自分の意見も表現できる。〈技能・表現〉学習による気付き、疑問、自己の取り組みをプレゼンテーションできる。	◎	◎	◎	○
看護学概論 II	看護概論で学んだことを基に、看護の専門職者としての資格、期待される役割、看護の機能と実践について学習し、看護学の基盤となる知識・態度を深める	〈知識・理解〉1. 看護職とその資格について述べることができる。2. 内的規範である看護倫理と外的規範である法的側面について説明できる。3. 看護行為の成り立ちについて概要が説明できる。 〈思考・判断〉1. 習得した情報から自分考える大枠でのナース像を伝えることができる。2. 看護の専門職になるために個々が必要と考える学びについて説明できる。〈関心・意欲〉課題に積極的に取り組み報告できる。 〈態度〉1. 人と人との関わりについて、自己の役割を考えながら行動できる。〈技能・表現〉グループワークで自分の意見を述べることができる。	◎	◎	◎	○
看護過程論	看護過程の展開	1. 看護過程に関する基礎的知識、具体的方法を述べることができる。2. 紙上患者で、看護過程が展開できる。	◎	◎	◎	○
基礎看護方法論 I	1. 看護技術の考え方や構造について理解する。 2. 看護行為に共通する援助技術について理解する。 3. 健康的な日常生活行動を促進する援助技術について理解する	〈知識・理解〉看護行為に共通する技術、健康的な日常生活行動を促進する援助技術について、学習内容を理解し説明できる。 〈思考・判断〉安全性・安楽性・個別性の視点から、各技術項目を捉えることが出来る。各技術に関するエビデンスが説明できる。 〈関心・意欲〉看護の対象である人間に関心を持ち、自己の生活行動を振り返りながら、健康が障害された人の生活について考えることが出来る。 〈態度〉グループメンバーとしての役割がとれる。	◎	◎	◎	○
基礎看護方法論 II	・看護実践の基盤となり各看護学に共通する看護基本技術について学ぶ。 ・診療に関連する看護技術、療養生活の安全確保やリスクマネジメント、及び、看護における教育的かかわりの技術、入院から退院までの看護やターミナルにおける患者の看護について教授する。 ・「基礎看護学方法論 II」では講義を中心に実施し、その技術演習を「基礎看護学方法論 II」で行うため同時進行する。	〈知識・理解〉各単元の学習内容に関する基礎的知識を理解し説明できる。 〈思考・判断〉1. 技術を行う際の危険因子、及び安楽・自立・能率を高める因子について説明できる。2. 技術を行う際、行為の意味付けを説明できる。3. 患者への影響を観察しながらケアを評価できる。4. 教育的視点をもって技術を提供できる。 〈関心・意欲〉その患者に最も有効な技術となるよう患者への影響を観察しながら工夫する姿勢をもつことができる。 〈態度〉実際の看護場面を想定し、真剣な態度で臨むことができる。〈技能・表現〉、その患者に有効な技術を提供するよう工夫できる。	◎	◎	◎	○
基礎看護学方法演習 I	1. 看護に共通する技術である、人間関係を発展させる技術、安全を守る技術、安楽確保の技術、情報収集と観察の技術等を演習を通して修得する。 2. 日常生活の援助技術を修得する。 3. 基本技術の目的・必要性・期待される効果を認識し、正確な看護技術が修得できると共に、基本技術を支える態度を養う。	〈知識・理解〉各技術のエビデンスとなる知識が説明できる。正確な看護技術が実践できる。 〈思考・判断〉基本技術の必要性・期待される結果を説明できる。 〈関心・意欲〉事前の課題に積極的に取り組む、不明点を演習時間内でクリアできるようにする。 〈態度〉グループで効果的な演習が実践できるよう、メンバーの役割を果たす。〈技能・表現〉時間内に予定された技術項目を実施できる。	◎	◎	○	○
基礎看護学方法演習 II	・看護実践の基盤となり各看護学に共通する看護基本技術について学ぶ。 ・診療に関連する看護技術、療養生活の安全確保やリスクマネジメント、及び、看護における教育的かかわりの技術、入院から退院までの看護やターミナルにおける患者の看護について教授する。 ・「基礎看護学方法論 II」では「基礎看護学方法論 II」の講義をもとにその技術を演習する。 ・「基礎看護学方法論 II」・「基礎看護学方法論 II」は同時進行する。	〈知識・理解の観点〉各単元の学習内容に関する基礎的知識を理解し説明できる。 〈思考・判断〉1. 技術を行う際の危険因子、及び安楽・自立・能率を高める因子について説明できる。2. 技術を行う際、行為の意味付けを説明できる。3. 患者への影響を観察しながらケアを評価できる。4. 教育的視点をもって技術を提供できる。 〈関心・意欲〉、その患者に最も有効な技術となるよう患者への影響を観察しながら工夫する姿勢をもつことができる。 〈態度〉、実際の看護場面を想定し、真剣な態度で臨むことができる。〈技能・表現〉、患者に有効な技術を提供することができる。	◎	◎	○	○

基礎看護学実習Ⅰ	・ヘルスケアチームにおける相互協力を基盤に据えた質の高い看護師の育成を目指す。 ・初回の実習である本実習では、看護実践の基礎を習得する。 ・医療チーム各部門を理解し相互協力の基盤形成を促す。 ・病棟における看護実習及びヘルスケアチーム(医療チーム)実習を実施する。	1. 病院に入院している患者の生活を説明できる。2. 看護師の一日の仕事の流れを説明できる。3. 指導者のもとに看護実践を見学し、既習技術を許可された範囲で実施する。4. その看護実践の必要性を理解できる。5. 看護職以外の医療者が病院のなかで働いている様子を見学し、その役割を説明できる。6. ヘルスケアチームの機能について説明できる。7. 病院における看護師の働く部門による仕事内容の違いを説明できる。8. 看護師同士の連携について説明できる。9. 看護師と他の医療者との連携について説明できる。10. 看護師として必要な態度、マナーを身につける。	◎	◎	○			○
基礎看護学実習Ⅱ	・実際に一人の患者を受け持ち、総合的に理解し、その人の必要としているニーズを適切に判断し、そのひとを大切に看護することの基盤を学ぶ。 ・医療チームの一人員としての自覚を持つ。 ・自己の看護観を養う。	1. 患者・家族とのより良い対人関係を築くことができる。2. 受持ち患者の看護過程の展開ができる。3. 看護学生という立場を踏まえ、医療チームの一員として役割の一端を担うことができる。4. 看護実践におけるリスクを予見し、回避することができる。5. 受持ち患者の看護等を通して、自己の看護観を養うことができる。6. 看護師として必要な態度、マナーを身につける。	◎	◎	○			○
看護倫理学	・倫理、及び、看護倫理の概念を教授する。 ・質の高い実践の基盤である日常の看護実践における倫理性を追求する。 ・医療上の倫理問題における看護師の責務・役割について教授する。	〈知識・理解〉1. 「倫理とは」、「看護倫理とは」を説明できる。2. 看護師の倫理綱領(日本看護協会、世界看護師協会)を列挙できる。3. 看護師の倫理綱領の各項について具体例を挙げることができる。4. 医療上の問題の例をあげ、その中で看護師の果たす役割を説明できる。〈思考・判断〉1. 日常的な看護実践において倫理上の問題が発生していることを判断できる。2. 倫理上発生している問題の解決法を考えることができる。 〈関心・意欲〉発生した倫理上の問題解決への意欲を持つことができる。 〈態度〉他者の考え、自己の考えともに尊重する態度をもつ。 〈技能・表現〉自分の考え・意見を分かりやすく表現できる。	◎	◎	◎			○
看護管理学	1. 看護管理の基礎となる理論を理解する。 2. 看護管理のプロセスを学び、看護ケアの提供者として必要な看護の提供システムを理解する。 3. 人材育成の制度や実際を学び、将来看護職になる者として自己能力を向上させる必要性を理解する。 4. 看護職が行政や政策にどのように関わっていくかを学び、看護職の社会性の向上や社会システムとして看護をとらえる視点を養う。	〈知識・理解〉1. 看護管理の基礎となる理論をあげることができる。2. 看護管理のプロセスが説明できる。3. 日本の看護制度・行政について説明できる。 〈思考・判断〉1. 看護をとりまく環境の変化を指摘できる。2. 看護職員的能力を発揮できるような組織・運営について自分の意見を述べることができる。3. 看護専門職としての責務について述べることができる。〈関心・意欲〉1. 看護管理に関する課題に関心を持つ。2. 看護職の社会性の向上や社会システムとして看護をとらえる視点を養う。 3. 看護の専門職として自己能力を向上させる必要性に気づく。	◎	◎	◎			◎
看護教育学	・看護教育の歴史と変遷、看護教育の現状と問題点、専門職看護師の将来像、看護継続教育・生涯教育の必要性について概説する。 ・看護対象者への指導方法と技術、授業展開の方法等について教授する。	〈知識・理解〉1. 看護教育の歴史と変遷について理解する。2. 看護教育の現状を理解し、問題点を列挙できる。3. 専門職看護師像を描くことができる。4. 看護継続教育・生涯教育の現状を理解できる。5. 看護の対象者への指導方法と技術について学ぶ。6. 授業展開の方法等について教授する。 〈思考・判断〉1. 学習者のレディネスを把握して教授方法を判断することの重要性を理解する。2. 集団の特性・個性を踏まえて教授法を選択することの重要性を理解する。 〈関心・意欲〉看護教育の向上に関心を持ち発展させようという意志を持つことができる。 〈態度〉教授者は、学習者に教授するだけでなく、学習者からも学ぶ姿勢を持つ。 〈技能・表現〉相手の観点上に立つて相手の成長を促すことを目指して教授法を工夫できる。	◎	○	◎			○
国際看護学	Classes: This subject consists of seven classes held on the 8th Floor, Research and Education building. They are 90 minutes each, held November 21, 2008 - January 23, 2009 from 08:40 - 10:10 or as described in the class schedule. Teaching and Learning Activities: International Nursing will be taught in English, with translation available in class. Classes will take the form of seminars, with students expected to contribute and share their ideas and findings from assignment work.	〈知識・理解〉1. Provide a definition of international nursing, its purposes and challenges as globalization increases its effects 2. Demonstrate an understanding of selected international nursing and health organizations, their structures and goals including Japan's nursing structure, organization, education and issues in the context of a global workplace 〈思考・判断〉3. Critically analyze specific international nursing issues such as the global shortage of registered nurses; the education and training of nurses to ensure a competent workforce; and the development of nursing standards and competencies 〈関心・意欲〉4. Demonstrate a willingness to learn by actively participating in seminars, directed readings, internet searches, classroom discussion and group work 〈技能・表現〉5. Demonstrate new knowledge and critical thinking skills by passing brief papers, and a final examination	◎	○	◎	◎		△
看護リーダーシップ論			△	◎	○	◎		○
看護研究概論	・看護における研究の意義、看護研究の課題、研究過程と方法について概説する。 ・研究過程における文献検索の方法、看護に関連する研究論文の検討と活用、研究計画書等の基礎的知識について教授する。	〈知識・理解〉1. 学問とは・研究とは・科学とはについて説明できる。2. 「看護研究とは何か」を説明できる。3. 研究のプロセス、文献検索・検討、研究デザイン、研究計画書について基本事項を説明できる。4. 看護研究における倫理について理解する。 〈思考・判断〉代表的な研究デザインを用いた研究論文を比較検討し、その特徴を説明できる。〈関心・意欲〉自己の興味ある研究テーマを探り、関連する文献を読み、研究計画書の作成を試みる。 〈態度〉主体的に取り組むことができる。 〈技能・表現〉1. Small Group Learning(S. G. L)における、学習成果を効果的にPresentationすることができる。2. 研究計画書をわかりやすく表現できる。	○		◎		○	
成人疾病学	循環器、呼吸器、消化器、内分泌、感染症、腎臓、膠原病、血液、整形、婦人科、神経内科、脳神経外科	主な成人疾病を学んで、疾病の病態とその治療法を理解し、説明できる。	◎	○	◎			
成人看護学概論	ライフサイクルにおける成人期の特徴を解説し、成人期に特有な健康障害の特徴、成人看護の対象論と援助論、および、看護の役割を教授する。また、成人看護に適応される理論とモデルを教授する。	1. 成人期の特徴と健康生活・健康障害について理解できる 2. 成人看護に適応される主な理論とモデルを理解できる 3. 成人期の健康障害を抱える人々に対する看護の役割について理解できる	◎	◎	○		○	○

成人看護学Ⅰ(急性期・回復期)	基礎看護学、成人看護学概論、周辺諸科学の知識を基盤として、成人急性期・回復期・周手術期およびクリティカルな状態にある対象への看護について、基礎的理論と概念、援助方法について教授する。	1. 急性期、回復期、周手術期にある患者の特徴を理解する。 2. 急性期、回復期、周手術期の看護問題を解決する方法を学ぶ。 3. 急性期、回復期、周手術期の臨床看護技術について学ぶ。	◎	○	○		
成人看護学Ⅱ(慢性期・終末期)	1. 成人期に生じやすい健康問題を理解する。 2. 慢性期・終末期看護の特徴及び概要を理解する。 3. 慢性期・終末期病態にある人やその家族を理解し、看護を行っていくために必要な諸理論を理解する。 4. 成人期にある人が、活用可能な医療、保健、福祉サービスを理解する。	〈知識・理解〉 1. 成人期の身体・心理・社会的特徴を説明できる。 2. 成人期に生じやすい健康問題を説明できる。 3. 慢性期・終末期看護の特徴及び概要を説明できる。 4. 慢性期・終末期病態にある人やその家族を理解し、看護を行っていくために必要な諸理論を理解できる。 5. 成人期にある人が、活用可能な医療、保健、福祉サービスを説明できる。 〈思考・判断〉 1. 各系の機能障害をもつ人は、いかなる健康問題及び生活上の困難を抱えるのか説明できる。 2. 機能障害をもつ慢性期・終末期病態にある成人患者の健康問題を解決するための看護を根拠とともに説明できる。 3. 慢性期・終末期看護で求められる看護師の能力について、自らの考えを記述・口述できる。 〈関心・意欲〉病を持つ成人患者や家族の体験に関心を持つ。 〈態度〉機能障害と健康問題および生活上の困難との関連を理解しようとして自己学習する。 〈技能・表現〉レポートおよびプレゼンテーション課題に対し、Technical terms を適切に用いて、自らの意見・考えを論理的に記述・口述できる。	◎	○	○		○
救急看護学	救急医療と救急看護の概要を解説し、救急状況にある患者とその家族の特徴を理解させるとともに、あらゆる医療場面に必要な救命救急処置と救急・災害看護の基本的知識・方法を教授する。	1. 救急医療の概要と救急医療システムを理解できる。 2. 救急状況にある患者とその家族の総合的理解と医療職者の医療および看護活動(災害医療を含む)について理解できる。 3. 救急医療で遭遇する事多い疾患・外傷などの病態とケアについて理解できる。 4. 基本となる救命技術を身に付ける。	◎	○	○		
フィジカルアセスメント	看護アセスメントに必須であるフィジカルアセスメントの概要を解説し、人体の構造と機能を踏まえ、身体の系統的観察、システムチェックレビュー、フィジカルイグザミネーションの方法とアセスメントについて、技術演習を中心とした教授をする。	1. フィジカルアセスメントの基本手技について理解できる。 2. 問診、視診、触診、聴診、打診の基本的テクニックを実施できる。 3. 主要内臓器の位置を踏まえ、身体各部の位置を確認することができる。 4. 胸部、背部、腹部、感覚器(目、耳、口など)の視診、触診、聴診、打診を実施できる。	◎	○	○		
緩和ケア論 <検査も受ける>	1. 緩和ケア・終末期ケアの概念とその歴史的背景を理解する。 2. 終末期患者及びその家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 3. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・問題に対して、その人らしさを重視して質の高い生活を送れるような方向で援助する方法を理解する。 4. 終末期患者や家族に対する倫理的課題や看護者の役割・姿勢、他職種との連携の重要性を理解する。	〈知識・理解〉1. 緩和ケア・終末期ケアの概念とその歴史的背景を述べることができる。2. 終末期患者及びその家族の身体的・精神的・社会的特徴を述べることができる。(進行がんの一般的な病態生理、告知・病状進行・死別による生理的・心理的反応)3. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題を述べることができる。 4. 健康レベル低下に伴い生じるニーズ・健康問題を解決するための具体的な方法を述べることができる。5. 終末期患者の生活の質に関わる要因とその測定方法を述べることができる。 〈思考・判断〉1. 対象の生活・生命の質を維持・向上させるような方向で援助することの意味を述べることができる。2. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題をアセスメントできる。3. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題を解決するための具体的な方法を選択できる。 〈関心・意欲〉レポート・グループ討議に際して人間の生と死の意味、生命・人間の尊厳、終末医療現場の現状と課題、終末期患者の生活の質(QOL)に関わる要因等の情報収集・活用ができる。 〈態度〉1. 終末期患者や家族に対する倫理的課題や看護者の役割・姿勢、他職種との連携の重要性を述べることができる。2. グループ討議に積極的に参加している。 〈技能・表現〉グループ討議時の発表、レポートの表現が論理的である。明瞭な表現ができる。	◎	○	○		△
高度先進医療看護学	高度先進医療の現状と仕組みについて解説し、具体例を通してそれにかかわる看護の役割について教授する。また、高度医療にまつわる問題についても、看護の立場で考察できるようにする。	1. 高度先進医療と看護の関わりについて理解する。 2. 高度先進医療の具体例について説明できる。 3. 高度先進医療にまつわる問題について認識し、考察できる。	◎	○	○	○	
成人看護学実習Ⅰ(急性期)	成人急性期・回復期・周手術期にある対象の状況と特徴を理解させ、心身の危機的状況から生活機能の回復、社会復帰に至るまでの看護に必要な基礎的知識・技術・態度を、実習を通して教授する。	1. 手術を必要とする患者とその家族がおかれている状況を身体的・心理的・社会的側面からとらえることができる。 2. 患者の病態と手術療法を理解する。 3. 周手術期に必要な基本的な看護について理解し実践できる。 4. 周手術期を通して、患者を中心とした医療チームメンバーの役割と連携について説明することができる。 5. 看護を学ぶ学生として自らの課題をもち、志向する看護専門職としての望ましい態度の涵養を図ることができる。	◎	◎	○		

成人看護学実習Ⅱ(慢性期)	<p>1. 慢性期、終末期病態にある成人期の人々とその家族を身体的・社会的側面から総合的に理解する。</p> <p>2. 患者及びその家族と有効な人間関係を成立させ、患者の健康問題を判断し、解決方法を計画し、実施、評価する。</p> <p>3. 継続看護の必要性を理解し、社会復帰への援助方法を理解する。</p>	<p><知識・理解> 1. 慢性期・終末期病態にある成人期の人々の身体・心理・社会的特徴を説明できる。2. 患者に生じている機能障害出現のメカニズムと成り行きを説明できる。3. 患者やその家族を理解し、看護を行っていくために必要な諸理論を説明できる。4. 患者及び家族が活用可能な医療、保健、福祉サービスを説明できる。</p> <p><思考・判断> 1. 機能障害をもつ患者がいかなる健康問題及び生活上の困難を抱えるかを説明できる。2. 機能障害をもつ患者の健康問題を解決するための看護を根拠とともに説明できる。3. 慢性期・終末期看護で求められる看護師の能力について、自らの考えを記述・口述できる。</p> <p><関心・意欲> 病を持つ成人患者や家族の体験に関心を持つ。</p> <p><態度> 実習中の行動における自己客観性、責任性、協調性、共感性、規律性、慎重性、倫理性</p> <p>いかなる場面においても、人権、生命の尊厳を尊ぶ態度がとれる。</p> <p>*人の死に直面している自分の情動反応を分析し、自己洞察できる。</p>	◎	◎	○		
成人看護学実習Ⅲ(クリティカル領域)	<p>急性かつ重篤な状態にある対象の状況と特徴を理解させ、患者の命を救い、生を支え、回復を促進するために必要な看護について実習を通して教授する。また、一勤務帯を通した看護の実務的な実習とし、これまでに学んだ臨床看護の知識と技術を活かした統合的内容を学習させる。</p>	<p>1. 生命の危機状態にある患者と家族の状況と特徴を理解する。</p> <p>2. 生命の危機状態にある患者と家族の状況と特徴を理解する。</p> <p>3. 救急医療のシステムを理解する。</p>	◎	◎	○		
精神保健学	<p>1. 成長発達段階における、心の健康・不健康の問題について理解する。</p> <p>2. さまざまな精神疾患について理解する</p> <p>3. 精神障害の抱える症状を理解する。</p> <p>4. 精神障害の診断と検査の種類について理解する。</p> <p>5. 主な精神障害の治療法について理解する。</p>	<p><知識・理解> 1. 現代社会における精神保健の矢割が理解できる。</p> <p>2. こころの健康について理解できる。3. 精神障害について理解できる。4. 個々の精神疾患の特徴について理解できる。5. 精神科における診断や治療法について理解できる。</p>	◎	○	○		○
精神看護学	<p>1. 成長発達段階における、心の健康・不健康の問題について理解する。</p> <p>2. 社会における心の問題を理解するとともに精神障害者の置かれている現状を知る。</p> <p>3. 精神科におけるチーム医療の中での看護者の役割を理解する。</p> <p>4. 精神保健医療システムの現状と問題点について理解し、その活用について学ぶ。</p> <p>5. 精神症状・精神疾患について理解し、援助の方法について学ぶ。</p>	<p><知識・理解> 1. 精神医療や精神科看護の変遷について理解する。</p> <p>2. 精神保健医療システムについて理解できる。3. 精神障害者とそれを取り巻く現状について理解し、適切な援助方法が理解できる。</p> <p>4. 精神的な病を持つ人への看護ケアの基礎を理解できる。</p>	◎	○	○		○
リエゾン精神看護学	<p>1. リエゾン精神看護の役割および機能について理解する。</p> <p>2. 身体を病む人への精神的ケアの重要性を理解する。</p> <p>3. リエゾン精神看護活動に用いる看護ケア技術の基礎を理解できる。</p>	<p><知識・理解> 1. リエゾン精神看護について、その機能および看護者の役割を理解できる。2. 患者のニーズに応じた適切なケアが理解できる。</p>	◎	◎	○		
精神看護学実習	<p>1. 精神を病む人との関わりを通して、その人を理解する技術(コミュニケーション、接近技法)を学ぶ。</p> <p>2. 患者の抱える精神保健上の問題について、身体面・精神面・社会面から理解する。</p> <p>3. 患者の抱える問題や持っている力についてアセスメントを行い、必要な援助技術を学ぶ。</p> <p>4. 精神障がい者を地域で支えるための制度や施策、社会資源などについて理解を深め、精神障がい者がその人らしく生活するために何が必要なかを考えることができる。</p> <p>5. 看護師としての自己を成長させるために自己の言動を振り返り、自己開発のための洞察を試みる。</p>	<p><知識・理解> 1. 種々の精神疾患の症状と治療法および、それに対する適切な援助方法を理解できる。</p> <p>2. 発病に至った経緯を理解し、身体的・精神的・社会的側面から患者を理解することができる。</p> <p>3. 患者の持つ障害の内容とその程度、患者の受けている治療を理解できる。</p> <p>4. 患者とのかかわりをおとして精神科病棟における安全管理の特殊性を理解する。</p> <p>5. 受け持ち患者のセルフケア能力のアセスメントを行い必要な援助ができる。</p> <p>6. 発達段階を考慮して精神状態をアセスメントすることができる。</p> <p>7. 受け持ち患者の全体像を把握し問題点を明確にできる。</p> <p>8. 受け持ち患者に必要な看護計画を立て実施できる。</p> <p>9. 患者間、学生を含めたスタッフ-患者間、スタッフ間、および病棟全体のダイナミクスを理解し、チームワークについて理解できる。</p> <p>10. カンファレンスを通して、様々な精神に障害を持つ人への援助について学ぶことができる。</p>	◎	◎	○		
小児疾病学	<p>1. 小児の成長・発達の特徴を理解する。2. 小児に特有な疾病の概念、診断、検査法、治療法を理解する。</p>	<p><知識・理解> 1. 小児の成長・発達の特徴を説明できる。2. 小児疾患の病態生理を説明できる。3. 小児に特有な疾患の概念・原因・症状・検査・診断・治療を説明できる。4. 小児疾病の予防方法を説明できる。5. 現場で用いられる医療英語を理解できる。</p> <p><思考・判断> 小児の発達段階に応じた視点で、小児疾病を考えることができる。</p>	◎	○	◎	○	
小児看護学概論	<p>1. 小児看護の理念と目的、役割を理解する。</p> <p>2. 小児保健における小児看護の役割を理解する。</p> <p>3. 小児期各期の特徴と生活について学び、健康な小児の成長・発達を理解する。</p> <p>4. 小児とその家族への適切な看護ケア・支援について、考察する。</p>	<p><知識・理解> 1. 小児看護の理念と目的、役割を説明できる。2. 小児保健における小児看護の役割を説明できる。3. 小児期各期の特徴と生活について説明できる。4. 健康な小児の成長・発達の特徴を説明できる。</p> <p><思考・判断> 小児とその家族への適切な看護ケア・支援について考えることができる。</p>	◎	◎	◎		○

小児看護学	<p>1. 小児看護の理念と目的、役割を理解する。 2. 健康な小児の成長・発達を理解する。 3. 小児期各期の特徴と生活について学び、小児に必要な生活の援助技術を習得する。 4. 小児に特有な疾患や症状・障害の看護について、知識と技術を習得する。 5. 小児とその家族への適切な看護ケア・支援について、考察する。</p>	<p><知識・理解> 1. 子どもの心身の未熟性(やがて成熟する!)を理解できる。 2. 子どもの成長・発達について理解できる。 3. 小児期各期の特徴と生活について理解できる。 4. 子どもに特有な疾患や症状・障害の看護について理解できる。 <思考・判断> 1. 疾病や障害、入院が、子どもとその家族に及ぼす影響について考察できる。 2. 子どもとその家族への適切な看護ケア・支援について、考察できる。 3. 子どもを看護するときの看護職者の態度や心構えについて考察できる。 4. 子どもに特有な疾患や症状・障害について、適切な判断ができる。 <関心・意欲> 1. 子どもの誕生から成人するまでのプロセスに、関心を持つことができる。 2. その過程で求められる看護職者の役割を考えることができる。 <態度> 1. 子どもに関心を持ち、子どもの視点や気持ち・行動を理解しようと努力する。 2. 子どもの看護に必要な知識と技術の習得を目指して、努力する。 <技能・表現> 設定された演習の知識と技術を習得できる。 <その他> グループワークを通して自分自身と仲間のことを知り、共同作業の成果と喜びを経験することができる。</p>	◎	○	◎		○
小児看護学実習	小児看護の対象を理解し、看護実践能力を養う。	<p><知識・理解> 1. 小児期の疾病・障害の特徴を理解できる。 2. 疾病や障害、入院が小児や家族に及ぼす影響について理解し、看護の役割がわかる。 3. 健康を障害された小児に対する保育(遊び、しつけを含む)の重要性を理解できる。 4. 入院中、小児が遭遇しやすい事故と安全対策・指導・環境整備について理解できる。 5. 小児看護における福祉施策とその適用について理解できる。 <思考・判断> 受け持ち患児に実施した看護について考察できる。 <関心・意欲> 小児看護に関心を持つ。 <技能・表現> 1. 受け持ち患児に看護を展開できる。 2. 受け持ち患児に保育(遊び、しつけを含む)を行うことができる。</p>	◎	◎	○		○
母性対象論	母性看護の意義・母性看護の基礎となる概念について教授する。	<p><知識・理解> 1. 母性看護の主な概念について概説できる。 2. 母性看護の発達と歴史について概説できる。 3. 母子保健の指標を考察し、問題点を列挙できる。 4. 母子保健の動向を知り、母子保健の現状を分析できる。 5. 母性看護における倫理的課題を概説できる。 6. 母性看護に関する法令について概説することができる。 7. ライフサイクル各期の女性の身体的・心理的・社会的特徴を列挙できる。 8. ライフサイクル各期の女性の健康課題について述べるができる。 9. 生殖に関する形態・機能・生理を述べるができる。 10. 妊娠の生理を述べることができる。 11. 妊娠に伴う母体の身体的変化を述べることができる。 12. 正常な胎児の発育について述べることができる。 13. 胎児付産物の形態・機能・生理について述べることができる。 14. 正常妊娠経過を説明できる。 15. 胎児—胎盤系の生理を理解し、モニタリングの結果を解釈できる。 16. 妊娠期の心理的特徴を述べることができる。 17. 妊娠各期の日常生活適応に対する援助方法を述べることができる。 18. 妊娠中のマイナートラブルへの対処方法を述べることができる。 19. 母親役割獲得にむけての援助方法を述べることができる。 <思考・判断> 1. 母子保健の指標について、アセスメントできる。 2. 母性看護における倫理について、アセスメントできる。 3. ライフサイクル各期の女性の性と生殖に関する健康状態がアセスメントできる。 4. 妊娠各期における妊婦の正常な母体の変化と順調な胎児の発育がアセスメントできる。 5. 妊娠各期における妊婦の日常生活適応とセルフケア能力をアセスメントできる。 6. FHRモニタリングの結果を分析・解釈し、母体—胎児間の状態をアセスメントすることができる。 <関心・意欲> 1. 授業に関連することを自己学習によって知識を深</p>	◎	◎	○	○	
母性看護学	本授業では、妊娠中・分娩期・産褥期にある女性と新生児期にある乳児および家族の看護課題と看護援助に必要な基本的知識・技術や各期に起こりうる健康の逸脱と回復にむけての看護援助に必要な基本的知識について教授する。	<p><知識・理解> 1. 妊娠中の合併症(糖尿病、心疾患、内分泌異常、自己免疫性疾患、血液疾患、感染症)について概説できる。 2. 正常からの逸脱予防の援助方法および逸脱時の回復にむけての援助方法を説明できる。(妊娠悪阻、妊娠中毒症、妊娠貧血、切迫流・早産、出血、胎位異常、) 3. 正常分娩経過を述べるができる。 4. 主な異常分娩(遅延分娩、回旋異常、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、弛緩出血、分娩損傷)について概説できる。 5. 産科手術、産科救急について概説できる。 6. 分娩にむけての援助方法を述べることができる。 7. 分娩期の安全・安楽にむけての援助方法を述べることができる。 8. 産科合併症を有する産婦に対する援助方法を述べることができる。(前期破水、軟産道裂傷、産科出血、陣痛異常、胎盤異常) 9. 帝王切開術時の援助方法を述べることができる。 10. 正常産褥経過を述べることができる。 11. 主な異常産褥(復古不全、産褥熱、乳腺炎)について概説できる。 12. 産褥期の退行性変化を促進させるための援助方法を述べることができる。 13. 母乳栄養の確立にむけての援助方法を述べることができる。 14. 母子(親子)相互作用の確立にむけての援助方法を述べることができる。 15. 母親の育児技術習得にむけての援助方法を述べることができる。 16. 産褥期における健康の逸脱からの回復にむけての援助方法を述べることができる。 17. 家族関係の調整、社会的資源の活用方法についての援助方法を述べることができる。 18. 新生児の生理的特徴を述べることができる。 19. 新生児期特有の生理的変化について述べるができる。 20. 異常新生児(新生児仮死、分娩外傷)について概説できる。 21. 新生児の胎外生活適応促進にむけての援助方法を述べることができる。 22. 健康から逸脱した新生児の回復にむけての援助方法を説明できる。 23. ハイリスク新生児に対する基本的な援助方法を述べることができる。 <思考・判断> 1. 分娩の順調な進行と産婦のセルフケア能力をアセ</p>	◎	○	○		○

母性看護学実習	妊娠・分娩期・産褥期および新生児期にある対象者、およびそれらを取り巻く家族を理解し、対象者の援助に必要な母性看護学としての知識・技術・態度を看護過程の展開を通して習得する。	1. 母性看護学の対象である妊婦・産婦・褥婦および新生児の健康状態・生活適応状態をアセスメントするために必要な知識と技術を習得する。 2. 対象の健康状態・生活適応状態を保持・増進させるための看護計画立案・実践・評価ができる。 3. 対象が健康から逸脱している場合は、その要因となっているものを追及でき、健康逸脱からの回復のための看護計画立案・実践・評価ができる。 4. 対象を中心にしたチーム医療の中で看護者の役割を理解・実践できる。	◎	◎	○		△
遺伝看護学	2. 単一遺伝子病の遺伝形式を理解し、疾患にはどのようなものがあるかを説明することができる。 3. 染色体とDNA・遺伝子との関係を理解し、説明することができる。 4. 染色体異常と単一(マルチ)遺伝子病の違いを説明することができる。 5. 遺伝問題を持つクライアントや家族に対する看護の役割を理解できる。 6. 遺伝性疾患をもつクライアントに対するケアについて理解できる。 7. 遺伝カウンセリングについて説明できる。	<知識・理解> 先天異常について説明できる。 遺伝現象と遺伝病について説明できる。 遺伝性疾患をもつクライアントに対するケアについて理解できる。 遺伝カウンセリングについて説明できる。 <思考・判断> 遺伝性疾患を遺伝看護学の視点から考えることができる。	◎	○	○	○	○
助産学	(1) 産学における基本的概念、基盤となる理論、助産師の責務と役割について教授する。 (2) 助産業務の展開に必要な性・生殖系の仕組みについて教授する。 (3) ライフサイクルおよびマタニティサイクルにおける母性・父性の心理について教授する。 (4) 助産実践に必要な文化的要因、家族および家族関係について教授する。 (5) 助産所の運営および助産業務の管理に必要な基本的能力を養う。	<知識・理解> 1. 助産学における基本的概念、基盤となる理論、助産師の責務と役割について説明できる。 2. 助産業務の展開に必要な性・生殖系の仕組みについて説明できる。 3. ライフサイクルおよびマタニティサイクルにおける母性・父性の心理について説明できる。 4. 助産実践に必要な文化的要因、家族および家族関係について説明できる。 5. 助産所の運営および助産業務の管理に必要な基本的法律の条文について説明できる。 <思考・判断> 物事を批判的に考えることができ、エビデンスに基づき判断できる。 <関心・意欲> 看護に必要な社会の情勢に関する新しい情報を得ることができる。 <態度> 専門職としての責任、役割を認識し、キャリア形成の基盤をつくることできる。 専門職としての職業アイデンティティの形成ができる。	◎	◎	○	○	
助産診断技術学	助産師として必要な診断学と基本的な助産技術(分娩介助、乳房マッサージ、助産計画、モニター判読、保健指導の技術、異常時における第一次救急医療への対応技術、新生児蘇生術、異常分娩介補、避妊法の指導)を教授する。	<知識・理解> 1. 妊娠の診断に必要な項目が説明できる。 2. 正常な分娩の原理・経過が説明できる。 3. 分娩経過の予測が説明できる。 4. 分娩時間の予測が説明できる。 5. 正常な産褥の経過が説明できる。 6. 正常な新生児の経過が説明できる。 <思考・判断> 妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象の助産診断ができる。 <関心・意欲> “助産診断・助産技術に関心を持ち、他者とディスカッションする。 助産診断・助産技術に関心を持ち、関連文献に興味を持つ。 積極的に課題に取り組む。” <態度> 積極的に分娩介助術の練習、乳房マッサージの練習、骨盤位牽出術の練習を行う。 <技能・表現> 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象の助産診断ができる。対象にあつた助産過程の展開ができる。分娩介助ができる。骨盤位牽出術ができる。異常分娩の介補ができる。乳房マッサージができる。乳房自己マッサージの指導ができる。健康教育(母親学級・家庭訪問)の企画運営ができる。避妊法の指導ができる。新生児蘇生ができる。	◎		○		○
周産期看護学	1. 妊娠、分娩、産褥及び乳汁分泌、胎児、胎児付属物の異常、及び治療について教授する(医師担当)。 2. 妊娠、分娩、産褥期の対象者のセルフケア能力とケア及び新生児・乳幼児のケアについて教授する(看護教官担当)。	<知識・理解> 1. 周産期の疾患について定義・臨床症状・病態生理・診断・治療の説明ができる。 2. 妊娠、分娩、産褥期の対象者のセルフケア能力とケア及び新生児・乳児のケアについて説明できる。 <思考・判断> 1. 妊娠婦及び新生児、乳児の状態について、正常と異常疾患の判断ができる。 2. 妊娠婦及び新生児、乳児の状態についてアセスメントすることができる。(助産コースの方は対象に対して、助産診断ができる。) <関心・意欲> 妊娠婦並びに新生児看護に関心を持ち、他者と討議する。 <技能・表現> 助産コースの方は、対象に対して、助産診断ができる。助産コースの方は、対象に対して、保健指導ができる。 助産コース以外の方は、対象に対して、看護診断ができる。	◎	○	○		○
助産学実習	周産期における母子とその家族に対する助産過程の展開を通して、学内で学んだ助産診断及び助産技術に必要な知識と技術を向上させ、実践できる能力を養う。実習を通して母性観・父性観・生命観を養い、助産のあり方と職業アイデンティティの形成を図る。	1. 妊娠・産褥期・新生児期における助産過程の展開ができる。 2. 正常な妊娠経過をたどった産婦の、分娩期における助産過程の展開ができる。 3. 助産活動を通して助産師の役割と責任を認識できる。 4. 母性観・父性観・生命観を養うことができる。 5. 助産管理能力を養うことができる。	◎	◎	○		△
老年疾病学	老化、加齢による臓器・器官の変化、老年者のアセスメント、老年病	<知識・理解> 老化とは何か、加齢による臓器・器官の形態学的・生理学的変化、老年者の特徴、老年病の病態・治療・予後について説明できる。	◎	○	○		
老年看護学概論	1. ライフサイクルの最終段階 2. 社会的背景や生活習慣などの影響による個人差 3. 老化に伴う諸臓器機能の生理的変化は予備力や適応力の低下 4. 高齢者を取り巻く社会の歴史と現状 5. 高齢者のQOLの維持を目指した老年看護のあり方	1. 高齢者の身体・心理・社会的特徴について知る。 2. 高齢社会の歴史と実態について知り、老年看護学が必要とされる社会的背景を理解する。 3. 老年看護学の概念、機能、目的について理解する。 4. 高齢者を取り巻く課題について考える。 5. 保健・医療・福祉チームの一員の立場から、高齢者ケアに果たす看護職の役割について考える。	◎	◎	○	○	◎

老年看護学	1. 高齢者の健康レベルの向上 2. 高齢者のQOLの維持・向上 3. 高齢者看護のあり方と具体的方法 4. 高齢者の看護過程	1. 高齢者の一般的な特性と老年看護における看護の方法の基本について知る。 2. 高齢者とその家族の特性を理解した上で、個々の対象者の維持・向上を目指した看護について考える。 3. 高齢者に起こりやすい種々の症候や日常生活障害に応じた看護のあり方と方法について理解する。 4. 高齢者の看護過程の特徴や具体的方法を理解し、実践する。	◎	◎	○		◎
老年看護学実習	1. ライフサイクルの最終段階 2. 社会的背景や生活習慣などの影響による個人差 3. 個々の高齢者の生きてきた道のりや価値観 4. 個々の高齢者を取り巻く環境・条件のもとでの最適健康の獲得・維持・増進 5. 最高のQOLが保たれるための援助 6. 高齢者を豊かな人間性や経験に基づく貴重な知識をもっている存在として認識し尊重する態度	1. 病院および施設で療養する高齢者とその家族についての理解を深め、適切な看護実践を系統的に行う能力を養う。 2. 高齢者の生活像を明らかにし、QOLが維持・向上されるための支援について学ぶ。	◎	◎	○		◎
在宅看護学	1. 在宅療養者および家族の健康レベルの維持・向上 2. 在宅療養者および家族のQOLの維持・向上 3. 在宅看護の歴史 4. 社会における在宅看護へのニーズ 5. 在宅看護のありかたと具体的方法	1. 在宅看護が必要とされる社会的背景を理解する。 2. 在宅看護において訪問看護師が果たす役割について理解する。 3. 在宅療養者とその家族の特性に応じた看護のありかたと一般的な方法について理解する。 4. 在宅療養者とその家族に対し、その人らしい生活の実現を支援する看護のありかたと具体的方法について考える。	◎	◎	○		◎
在宅看護学実習	1. 生活の場 2. 個々の対象者および家族が有する生活・健康への価値観や主体性の尊重 3. 自立支援 4. 自己決定 5. 在宅看護のあり方と具体的方法 6. 保健・医療・福祉の連携 7. 社会資源	1. 在宅療養者および家族の特性を理解し、個々の対象者に応じた看護の展開、QOLの向上を目指した看護のあり方について学ぶ。 2. 訪問看護ステーションの役割と機能および在宅療養者に関わる保健・医療・福祉の連携について学ぶ。	◎	◎	○		◎
地域看護学概論	地域を対象とした看護の展開プロセスを学ぶ。 また、地域看護活動に必要なツールについて理解する。	1. 地域看護活動の対象を説明できる。 2. 地域特性を考えることができる。 3. 健康相談、グループ支援、家庭訪問の方法を理解できる。 4. 学校保健の概略がわかる。	◎	◎	○		◎
地域看護学活動論	地域保健計画を学ぶ、健康教育を実施して企画から評価を体験する。	1. 保健事業の企画ができる。 2. 保健事業の実施ができる。 3. 保健事業の評価ができる。	◎	◎	○	○	◎
疫学・保健統計学	1. 疫学とは何か、どのような学問かを理解する。 2. 地域看護における疫学の役割を理解する。 3. 保健統計学とは何か、どのような学問かを理解する。 4. 地域看護における保健統計の役割を理解する。	<知識・理解> 1. 疫学アプローチと臨床医学的アプローチの特徴と違いを説明できる。 2. 曝露指標、スクリーニング指標を説明できる。 3. 標本抽出、検定等統計理論を説明できる。 4. 保健統計資料を分析できる。 <思考・判断> 1. 地域看護で扱われる健康問題を疫学的側面から解決する方策について考えることができる。 2. 地域看護で扱われる健康問題を統計学的側面から解決する方策について考えることができる。	◎		○	◎	◎
保健福祉行政論	1. 保健医療福祉行政の歴史の変遷を理解する。 2. 保健医療福祉行政の理念と制度・仕組みを理解する。 3. 地方公共団体の保健医療福祉計画と評価を理解する。	<知識・理解> 1. 保健医療福祉行政の施策と中心となる法規の概要を説明できる。 2. 国、都道府県、市区町村の行政の仕組みと役割が説明できる。 3. 一般衛生行政として保健所、市町村保健センターの機能が説明できる。 <思考・判断> 1. 保健医療福祉行政における医療職としての役割が考えられる。 2. 保健医療福祉行政における今日的課題を指摘することができる。 <関心・意欲> 1. 医療従事者として保健医療福祉行政を学習する意義について具体的に述べる。 2. 保健医療福祉行政がめざしていることを具体的に述べる。	◎	◎	○	◎	◎
地域看護学実習	地域の保健事業に参加し、地域看護の理論に照らして考察する。	1. 市町村と保健所の地域保健活動の展開を説明できる。 2. 保健事業と疾病対策を理解できる。 3. 保健師活動の技術を実践する。 4. 保健所と市町村の役割を説明できる。	◎	◎	○		◎

看護学卒業研究	看護学専攻の学習を通して抱いた疑問点や興味について、その科学的根拠を探索する過程を通して研究目的、研究方法、研究上の倫理、研究のまとめ方等について教授する。	<p><知識・理解> 1. 看護実践や看護学の発展における研究の関連性を説明できる。2. 倫理的配慮を説明できる。3. 研究プロセスを理解できる。4. 妥当性の確保する方策を理解できる。5. 研究論文がどのように構成されているかを理解できる</p> <p><思考・判断> 1. 先行研究の応用・活用可能性を説明できる。2. 倫理的配慮を説明できる。3. 適切な研究デザインを選択することができる。4. 妥当性確保のための工夫・配慮を説明できる。5. 研究の意義・限界、今後の提案を述べることができる</p> <p><関心・意欲> 1. 研究疑問・課題に対しアサーティブに議論できる。2. 研究に対する今後の関わり等を示すことができる</p> <p><態度> 1. 主体的に行動できる。2. 倫理的配慮を実施できる</p> <p><技能・表現> 自らの意見・考えを論理的に記述・口述できる。</p>	○		◎	△	
---------	--	--	---	--	---	---	--